

2016年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、太平洋中部から北米にかけて波列パターンが卓越し、アリューシヤンの南と北米西部では正偏差、太平洋東部と北米東部では負偏差となった。東シベリアでは月の初めにブロック高気圧が発達し、北日本付近ではトラフとなった。日本付近の偏西風は、平年の位置で強かった。太平洋高気圧の西への張り出しは平年と比べて強く、中央シベリアからオホーツク海にかけては高気圧偏差が明瞭だった。帯状平均した気温は、対流圏では広く高温偏差となり、北半球の中高緯度で明瞭だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インドからベンガル湾、南インド洋東部からインドネシア付近にかけて活発、大西洋、西部インド洋赤道域、太平洋西部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬後半から下旬前半にかけて、アフリカからインドネシア付近を東進した。対流圏下層では、南シナ海北部から日本の南海上にかけて高気圧性循環偏差となった。北半球の対流圏上層では、亜熱帯ジェット気流に沿った波列パターンが卓越した。南方振動指数は+0.9だった。

世界の天候

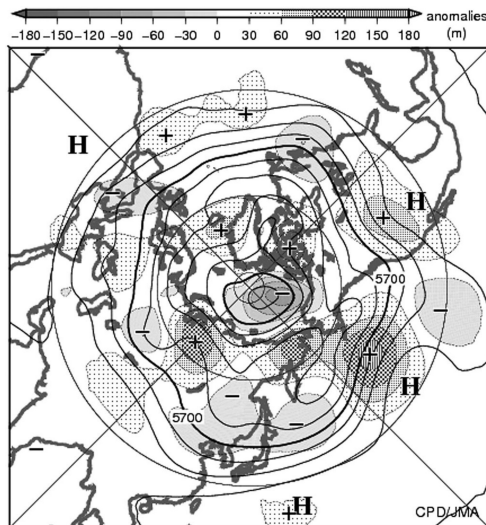
2016年6月の世界の月平均気温偏差は+0.41°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。6月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.70°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

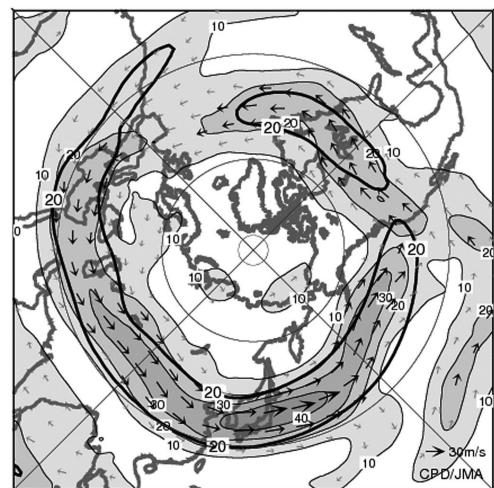
- 沖縄地方～中国南部で異常高温となった。
 - ルーマニア～フランス北部で異常多雨となった。
 - オーストラリア南東部で異常多雨となった。
- （気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

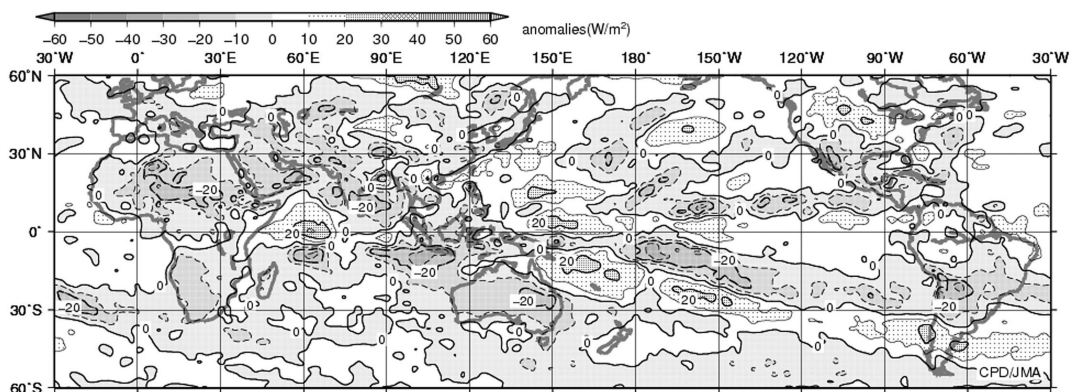
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



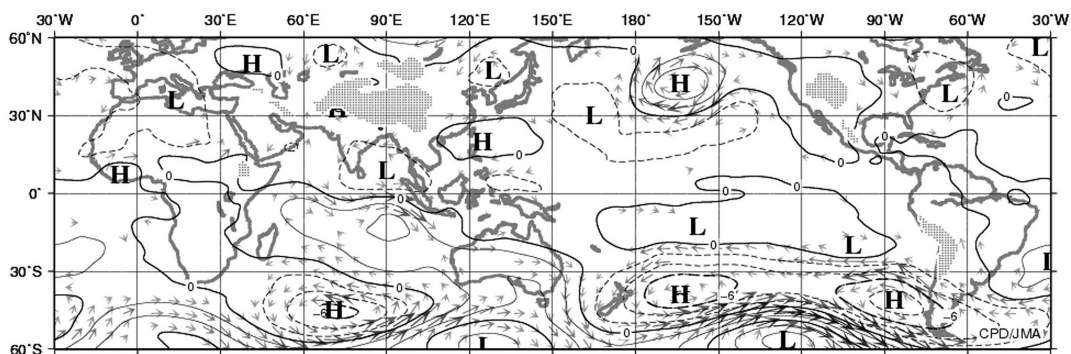
2016年6月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差
等値線間隔は60 m. 陰影は平年偏差. 平年値は1981～2010年の平均値.



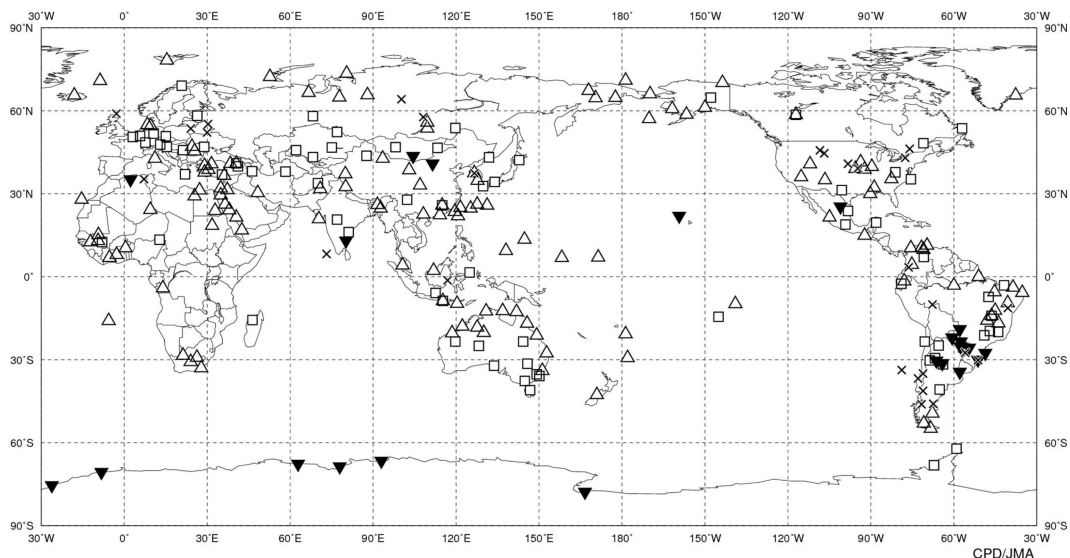
2016年6月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル
等値線間隔は10 m/s. 太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s. 平年値は1981～2010年の平均値.



2016年6月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年6月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。